

## 第6章 今後の課題 - 4つの方向性 - 《概要メモ》

### 1. 関係者の連携

#### (1) 意識改革

観光の持つ両義性（経済的側面、社会的側面）

・社会的側面：「賑やかさ（活気）」- 交流 - の創出  
観光まちづくり

図表6-1 「観光まちづくり」という概念

経済効果の享受に必要なこと

- ・「数（観光客数）」のみならず「金額（観光消費額）」も重視
- ・域内調達率の増加
- ・観光クラスターの形成推進

#### (2) 関係者の役割分担

図表6-2 東京都の場合

図表6-3 京都市における観光関連の政策評価

図表6-4 会津若松市のホスピタリティ「6つのどうぞ運動」ほか

#### (3) 住民参加の観光まちづくり（事例）

図表6-5 芸術振興の場合 - 3地域 -

- ・函館市、富良野市（以上北海道） 妻有（つまり）地域（新潟県）

図表6-6 街並み保存・再生 - 3地域 -

- ・豊後高田市（大分県） 飛騨市（岐阜県） 村上市（新潟県）

図表6-7 人材育成、都市・農村の交流ほか - 3地域 -

- ・読谷村（よみたんそん）（沖縄県） 小国町（熊本県） 飯田市（長野県）

図表6-8 その他 - 3地域 -

- ・豊岡市城崎町（兵庫県）：住民主導による将来ビジョン作成、外部人材・外部評価の活用
- ・別府市（大分県）：地域資源を発見するための路地裏散歩、地域通貨（「湯路（ゆーろ）」）の導入
- ・足助町（あすけちょう）（愛知県）：  
：町民が生涯現役でいられる「場」の提供（福祉の実現）

### 2. 佐渡ブランドの確立

想定される競合先との「差別化」戦略が基本 例 奈良 vs 京都

#### (1) 全般

佐渡：「文化歴史」+「自然」タイプの観光地

#### (2) 自然

競合観光地

図表 6 - 9 「自然」タイプ観光地の 2 分類

図表 6 - 10 関東からの主な宿泊観光地（「自然」タイプ）

- ・海・田んぼも含めた「自然の多様性」、「広さ」を P R
- ・島内を「周遊」
- ・海の幸・佐渡米等の「食」との連携

#### トキ

- ・潜在的資源 c f 国内客の不満、海外での知名度不足
- ・豊岡市（2005 年 コウノトリ自然放鳥）のケース

図表 6 - 11 環境と経済が共鳴するまち・豊岡

- ・2005 年「豊岡市環境経済戦略」

図表 6 - 12 国・県・市の取り組み状況

- ・2000 年「豊岡市コウノトリ基金」
- ・2002 年「豊岡市基本構想」
- ・2002 年「コウノトリ共生推進課」を設置

図表 6 - 13 市民、民間企業の取り組み

- ・豊岡市の事例が示唆すること

ア) トキ放鳥の判断は、環境・経済・社会等を踏まえ「今後の佐渡をどうするか」という大きな議論と密接不可分

イ) 上記判断に当たっては、関係者における十分な議論が必要、判断・その後の推進に当たっては自治体の強力なリーダーシップが重要なこと

ウ) 実際に放鳥する場合には、相当な準備(時間、金ほか)が必要

#### 海

・海に係わる活動市場規模（用具代等は除く、2004 年） 8,659 億  
（「2005 レジャー白書」）

・佐渡の海は沖縄より透明度が高い（「島へ 2001.9」）

・釣りを除けば、佐渡観光の競争力が比較的弱い「若年層、家族連れ」

#### 花

・園芸・庭いじりを趣味とする参加人口（2004 年） 3,750 万  
活動市場規模 1,650 億

・中高年層が中心、2004 年「浜松湖花博」、海外でも人気

・2004 年「フラワーリズム推進協議会」が発足

・新潟県の花の名所、新潟市「食と花の政令市」

・佐渡を中心とする広域観光（提案事例）(図表 6 - 36)

・ピクニック・ハイキング・野外散歩の参加人口（2004 年） 3,750 万  
活動市場規模 3,335 億

「歩く」フラワーリズム

- ・観光コースの開発
- ・開花情報の提供 ア)花カレンダー(佐渡の長谷寺)  
イ)電話やweb(湯河原温泉観光協会の梅情報)

### (3)文化歴史

#### 基本イメージ

- ・金沢： 加賀百万石(江戸時代)
- ・佐渡： 流人の島 芸能の島(「トランヴェール2004.3」)

#### 多用なイメージ

- ・JR東海「そうだ京都、行こう。」
- ・図表6-14 金沢の文化歴史パンフレット

#### 競合観光地

- ・図表6-15 関東からの主な宿泊観光地(「文化歴史」タイプ)

#### 散策

- ・図表6-16 京都におけるテーマ別観光
- ・図表6-17 長崎さるく博 06 - まち歩き博覧会 - の概要  
全て市民が企画し、コース設計やマップづくり、  
ガイドも行う - 「観光まちづくり」の実践 -

#### 能、寺院

- ・長崎県(平戸市、五島列島)「キリシタン紀行」(「宗教観光」)
- ・佐渡では広く能舞台・寺院が立地 維持管理、他地域との交流
- ・新潟市： りゅーとびあ能楽堂：能に注力(入門編も)  
Noism04(ノイズム)

新潟市との連携

#### アースセレブレーション

- ・図表6-18 海外旅行ガイドにおける佐渡の紹介記事
- ・インバウンド観光の重要性
- ・越後妻有(つまり)アートトリエンナーレ cf 仏ルモンド紙

### (4)食

#### 伝統料理、地産地消

- ・図表6-19 スローフード運動の三つの柱(活動方針)
- ・図表6-20 北海道スローフード宣言(2003年)  
「食育」,「地産地消」,「食文化」
- ・佐渡独特の伝統料理
- ・クイーン・アリス オーナーシェフ 石鍋裕氏の発言
- ・図表6-21 佐渡の隠れた美食(事例) - 佐渡そば -
- ・大崎そばの会(11・12月)
- ・「奥阿賀の郷土料理(レシピ付き)」,新潟市(旧岩室村)
- ・福島県会津若松市： 郷土食を健康食として再評価、レシピ収集  
実際の食事可能

## 長寿・健康食

- ・ 図表 6 - 22 長寿食 食生活改善の 10 カ条  
このうち、ご飯（佐渡米） みそ、海藻、魚介類  
等については 佐渡に優位性あり
- ・ 当該地域の住民の平均寿命
- ・ 沖縄県のケース
- ・ 新潟県「新潟県『夢おこし』政策プラン」  
(計画期間：2006 年 4 月～2017 年 3 月)  
具体的数字をあげ、長寿化を目標に掲げる  
「食品産業の高付加価値化」、「健康・福祉・医療産業の振興」
- ・ 東北福祉大学（宮城県）：
  - ア) 地元食材を使いながら、食が人の健康・暮らし・感性等に与える影響等について研究
  - イ) 関係者・機関等と連携し、将来的には、地域食材を利用した健康食レストラン、在宅介護の弁当づくり、医療分野でのアドバイス等を行う予定

## 食育

- ・ スローフードの精神のひとつ
- ・ 沖縄県山原（やんばら）地区の大宜見（おおぎみ）村  
熊本県の馬見原（まみはら）小学校  
東京都日野市

## 3 . マーケティング力の強化

### ( 1 ) 情報収集

- ・ マーケティングの基本
- ・ 観光先進国スペイン
- ・ わが国の観光統計の課題
- ・ 沖縄県： 個人・団体・家族・若者・高齢者・リピーター別に観光客の満足度調査（アンケート）を継続して実施

### ( 2 ) マーケティングの実践

佐渡の強い分野 - 60 代以上の旅行 -

- ・ 活性化の対策
  - ア) 島内の移動改善
  - イ) バリアフリーへの対応
    - 高山市：「住みよい町は行きよい町」をテーマに「バリアフリーのまちづくり」を推進（1996 年～）  
「観光福祉都市宣言」（2001 年）
    - 神戸市：震災を契機に強くまとまった人と人のつながりを活か

し「サポーター」を充実

ウ)観光コースの開発

- ・能舞台や寺社等
- ・園芸・庭いじり、ピクニック・ハイキング・野外散歩
- ・「てくてく歩き 熟年ゆとりの旅」  
「文化歴史」<sub>、</sub>「花」<sub>、</sub>「散策」がキーワード  
「観光ガイド(ボランティアも含む)」の育成も重要

エ)その他

適切な健康管理 宿泊施設・食堂等の配慮が不可欠  
県立の病院ネットワークを活用し、海・心身の関連づけ(沖縄)

佐渡の弱い分野 - 40代の家族旅行 -

- ・ア)20才未満の子供も含めると相当な市場規模
- 1)50代以降、夫婦等の形態での観光ができるリピーター候補
- ・活性化の対策
- ア)評価(サービス、食時ほか)は厳しいが、リピーターになると心強い40代女性  
満足度向上
- 1)40代女性に絞った情報発信の強化 c f . 金沢

佐渡の弱い分野 - 冬季 -

- ・活性化 v s 閉鎖、ただし何れでも営業関連情報は提供
- ・活性化の対策
- ア)目玉となる食材・料理(ブリ、スケトウダラ、カキ) c f 平戸市
- 1)目玉となるイベント実施 c f 寺宝公開(「冬の京都」)  
東山花灯路(はなとうろ)(京都)

#### 4. 広域観光

(1) 広域観光の意義

- ×「滞在日数の長期化」 趨勢を考える限り、実現はきわめて困難  
「リピーターの確保」<sub>、</sub>「新規観光客へのPR」

(2) 他地域の動向(事例)

- ・国土交通省「観光交流空間づくりモデル事業」(2003年度~)
- ・九州観光推進機構(会長:田中浩二)JR九州会長)

(3) 佐渡を中心とする広域観光(事例)

- ・佐渡を中心とする広域観光10テーマ(本行提案)

以上